

編集後記

先日、北海道の植物愛好家の読者からメールが届きました。それによると、今年、道央や道東の平地では、4月下旬にエゾヤマザクラとキタコブシ、ツツジ、さらに山野草であるカタクリ、アズマイチゲ、花壇のクロッカスなども一斉に開花し、早くも春爛漫の様相だそうです。こんな早い時期に多くの花が同時に咲くようなことは、過去にもあまり記憶がなく、特にサクラの開花の早いのにはびっくりしたとのことでした。

発端は、4月27日の帯広でのサクラ開花宣言です。北海道では、道南の函館や道央の札幌からサクラの開花がスタートすることが多く、これまで、道内で最初に開花した回数は、函館は46回、札幌は15回だそうです。今年は、本州方面にある高気圧が大きく発達し、フェーン現象に伴う乾いた南風が道東各地に吹き込んだことにより、朝からぐんぐん気温が上がり、帯広の4月27日午後2時の気温が27.3度と7月下旬並みの陽気となり、「道内最初のサクラの開花」となったものです。これは1953年の観測開始以来初めてということでした。

また、通常の年では3月下旬に開花するフクジュソウ、4月中旬に開花する森の“スプリング・エフェメラル（春の妖精）”と呼ばれるカタクリ、アズマイチゲ、エゾエンゴサク、4月下旬のキタコブシ、レンゲツツジ等が、4月上中旬まで続いた低温で開花が遅れたため、早春から春にかけて順序正しく開花する多くの種類の花の開花が4月下旬に重なったものと思われます。この後、スズランが咲き始める頃になれば、気候も安定し、札幌大通公園の花壇や各地の庭園も多くの草花が咲き誇り、文字通り百花繚乱の状態になると考えられます。

今年の夏がどのような気象で推移するかが心配されますが、気象庁が25日に発表した、7月までの3カ月予報によると、今年の夏は、エルニーニョの影響で、北海道から東北にかけての北日本の気温は平年並か低く、冷夏の恐れもあるとのことでした。また、偏西風が南下し、太平洋高気圧が平年より弱いいため、梅雨明けも遅くなりそうとのことでした。どうか豆類を含め今年の農作物が天候に恵まれよい作柄となることを期待したいと思います。

(池田 洋一)

発行

公益財団法人 日本豆類協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル4F TEL：03-5570-0071
FAX：03-5570-0074

豆類時報

No. 75

2014年6月20日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル3F TEL：03-3584-6845
FAX：03-3584-1757